

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年2月14日

**【四半期会計期間】** 第50期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

**【会社名】** サンコーテクノ株式会社

**【英訳名】** SANKO TECHNO CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 洞下 英人

**【本店の所在の場所】** 千葉県流山市南流山三丁目10番地16

**【電話番号】** 04-7157-3535

**【事務連絡者氏名】** 取締役副社長 佐藤 静男

**【最寄りの連絡場所】** 千葉県流山市南流山三丁目10番地16

**【電話番号】** 04-7157-3535

**【事務連絡者氏名】** 取締役副社長 佐藤 静男

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第3四半期 連結累計期間	第50期 第3四半期 連結累計期間	第49期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	10,854,719	12,430,892	15,112,776
経常利益 (千円)	662,973	1,040,658	840,463
四半期(当期)純利益 (千円)	341,543	619,929	443,332
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	379,023	748,701	620,057
純資産額 (千円)	7,084,889	7,999,350	7,320,900
総資産額 (千円)	13,766,216	14,540,258	14,089,930
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	83.93	152.34	108.94
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	83.78	151.60	108.71
自己資本比率 (%)	50.3	53.6	50.8

回次	第49期 第3四半期 連結会計期間	第50期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	48.44	75.79

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 当社は平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、欧米財政問題や新興国経済の減速などの影響により、先行きに不安要素が残る状況で推移しましたが、政府の経済対策及び今後に対する期待感を背景に、株式相場の上昇基調や円安効果の進展が企業マインドの改善を後押しし、緩やかな景気回復の動きがみられました。当社グループが関連する建設市場におきましても、景気対策関連の公共投資の増勢や堅調な民間設備投資を背景に、市況改善の傾向が顕著となってきました。しかしながら一方では、建設資材の不足や人員不足等により、建設コストの上昇や工事の着工ペースに遅れが生じておりました。

このような状況のもと、当社グループでは、主力製品のあと施工アンカーの販売が堅調であったほか、太陽光発電市場向け製品の販売が好調に推移しました。また、利益面では、高付加価値製品の販売を促進する一方で、営業経費等の販管費抑制に努めました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は12,430百万円（前年同四半期比14.5%増）、営業利益1,064百万円（同55.8%増）、経常利益1,040百万円（同57.0%増）、四半期純利益は、619百万円（同81.5%増）となりました。

各セグメントの業績は以下のとおりであります。

#### ファスニング事業

建設資材の不足や人員不足により工事の着工に遅れが出ましたが、都市圏を中心とした堅調な再開発需要や維持保全需要の回復を受けて、主力製品である金属系・接着系アンカーやドリルなどの施工関連ツール・引張確認試験機の販売が伸長しました。

この結果、当セグメントの売上高は9,479百万円（前年同四半期比12.4%増）、セグメント利益は785百万円（同26.3%増）となりました。

リニューアル事業

太陽光関連ではメガソーラー物件の受注や公共投資の増勢により、中規模物件の引合いが伸長したほか、外壁補修関連製品が順調に推移しました。一方、FRPシート関連製品は前期まで続いた補助金制度による特需の反動減がありました。

この結果、当セグメントの売上高は2,587百万円（同23.4%増）、セグメント利益は259百万円（同164.5%増）となりました。

センサー事業

電子基板関連で試験機関連製品が好調に推移したほか、アルコール測定器が堅調な伸びをみせました。

この結果、当セグメントの売上高は458百万円（同16.4%増）、セグメント利益は6百万円（前年同四半期はセグメント損失55百万円）となりました。

なお、数値にはセグメント間取引を含んでおります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動金額は、91百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設計画は以下の通りであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額 (千円)		資金調達方法	着手及び完了 予定年月	
				総額	既支払額		着手	完了
SANKO (THAILAND) LTD.	FASTEM 本社事業所 (タイ王国)	ファスニング 事業	生産設備	250,000	22,189	借入金及び 自己資金	平成25年 7月	平成26年 8月

(5) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より450百万円増加して14,540百万円となりました。これは主として現金及び預金、たな卸資産が増加したことによるものであります。

負債の合計は前連結会計年度末より228百万円減少して6,540百万円となりました。これは主として短期借入金、流動負債その他に含まれる未払金が減少した一方、支払手形及び買掛金、長期借入金が増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より678百万円増加して7,999百万円となりました。これは主として利益剰余金、為替換算調整勘定が増加したことによるものであります。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

今後の見通しにつきましては、依然として欧州経済や新興国経済の減速懸念が続いております。建設業界におきましても、公共投資や民間設備投資に明るさが見え始めましたが、鋼材価格の上昇傾向や人員不足による工事の着工遅れが予測されるなど、引き続き先行きに懸念が残る状況にあります。

しかしながら、経済対策の実施、株式相場の堅調や円安の定着、老朽化したインフラ設備の補修をはじめ、自然エネルギーを活用した環境分野での需要拡大など、国内景気は概ね回復基調で推移することが期待されます。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、中期経営ビジョンのもと、安全・安心・環境をキーワードに、建設用ファスニングを主体としたものづくり企業として事業の拡大を目指してまいります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,000,000
計	17,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,372,704	4,372,704	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,372,704	4,372,704		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日 (注)	2,186,352	4,372,704		768,590		581,191

(注) 平成25年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、所有株式数を1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 151,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,031,000	20,310	
単元未満株式	普通株式 3,752		
発行済株式総数	2,186,352		
総株主の議決権		20,310	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。
2. 平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割いたしました。なお、記載数値は株式分割前の株式数で記載しております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
サンコーテクノ(株)	千葉県流山市南流山三丁目10番地16	151,600		151,600	6.93
計		151,600		151,600	6.93

(注) 平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割いたしました。なお、記載数値は株式分割前の株式数で記載しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,192,609	1,522,206
受取手形及び売掛金	<sup>3</sup> 3,414,635	<sup>3</sup> 3,355,990
たな卸資産	2,419,146	2,667,339
その他	741,259	653,362
貸倒引当金	6,885	5,469
流動資産合計	7,760,765	8,193,429
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,371,805	1,407,772
土地	3,036,607	3,099,256
その他(純額)	537,792	571,646
有形固定資産合計	4,946,205	5,078,674
無形固定資産	100,014	85,510
投資その他の資産	<sup>2</sup> 1,282,944	<sup>2</sup> 1,182,644
固定資産合計	6,329,164	6,346,829
資産合計	14,089,930	14,540,258
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,061,024	1,222,736
短期借入金	3,446,320	3,138,820
未払法人税等	228,738	196,623
賞与引当金	130,298	82,263
その他	554,625	430,760
流動負債合計	5,421,006	5,071,204
固定負債		
長期借入金	101,342	212,645
退職給付引当金	1,012,651	1,021,359
役員退職慰労引当金	28,657	31,412
その他	205,372	204,286
固定負債合計	1,348,023	1,469,703
負債合計	6,769,030	6,540,907

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	768,590	768,590
資本剰余金	581,191	581,191
利益剰余金	6,056,145	6,594,687
自己株式	244,258	244,258
株主資本合計	7,161,669	7,700,211
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,164	16,366
為替換算調整勘定	6,498	80,522
その他の包括利益累計額合計	10,662	96,888
新株予約権	9,411	21,507
少数株主持分	160,482	180,743
純資産合計	7,320,900	7,999,350
負債純資産合計	14,089,930	14,540,258

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	10,854,719	12,430,892
売上原価	7,475,189	8,512,795
売上総利益	3,379,530	3,918,096
販売費及び一般管理費	2,696,241	2,853,853
営業利益	683,288	1,064,242
営業外収益		
受取利息	5,744	3,445
受取配当金	2,348	3,345
仕入割引	31,502	33,484
投資不動産賃貸料	23,092	23,168
持分法による投資利益	2,132	1,214
その他	32,691	30,890
営業外収益合計	97,511	95,549
営業外費用		
支払利息	14,362	10,890
売上割引	73,061	85,108
その他	30,401	23,135
営業外費用合計	117,825	119,133
経常利益	662,973	1,040,658
特別利益		
固定資産売却益	996	1,399
投資有価証券売却益	-	1,193
特別利益合計	996	2,592
特別損失		
固定資産除却損	1,655	8,310
役員退職慰労金	72,162	-
その他	800	-
特別損失合計	74,618	8,310
税金等調整前四半期純利益	589,351	1,034,940
法人税等	236,375	409,897
少数株主損益調整前四半期純利益	352,976	625,042
少数株主利益	11,432	5,113
四半期純利益	341,543	619,929

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	352,976	625,042
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	93	20,537
為替換算調整勘定	25,952	103,122
その他の包括利益合計	26,046	123,659
四半期包括利益	379,023	748,701
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	363,910	727,480
少数株主に係る四半期包括利益	15,112	21,221

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	
(税金費用の計算)	
税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。	
ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

(1) 当社は、連結会社以外の取引先の買入債務に対して、次のとおり債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)	
三倉工業株式会社	23,508千円	三倉工業株式会社	27,236千円
サンコー・トーカイ株式会社	5,419千円	サンコー・トーカイ株式会社	2,039千円
計	28,927千円	計	29,275千円

(2) 一部の連結子会社は、取引先が子会社製品を使用するリース契約につき、リース物件の引取を条件とした保証を行っております。

前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
11,752千円	7,651千円

2. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
投資その他の資産	59,895千円	60,384千円

3. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	21,113千円	8,272千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	171,274千円	188,328千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	71,216千円	35円	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	81,387千円	40円	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
	ファスニング 事業	リニューアル 事業	センサー事業			
売上高						
外部顧客への売上高	8,413,219	2,092,410	349,089	10,854,719		10,854,719
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18,946	4,534	44,920	68,401	68,401	
計	8,432,166	2,096,945	394,009	10,923,120	68,401	10,854,719
セグメント利益又は セグメント損失( )	622,081	98,177	55,218	665,041	18,247	683,288

- (注) 1. 調整額はセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
 2. セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
	ファスニング 事業	リニューアル 事業	センサー事業			
売上高						
外部顧客への売上高	9,469,006	2,585,259	376,626	12,430,892		12,430,892
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,031	1,916	82,133	94,081	94,081	
計	9,479,038	2,587,175	458,759	12,524,973	94,081	12,430,892
セグメント利益	785,492	259,655	6,669	1,051,817	12,425	1,064,242

- (注) 1. 調整額はセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	83.93円	152.34円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	341,543	619,929
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	341,543	619,929
普通株式の期中平均株式数(株)	4,069,414	4,069,366
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	83.78円	151.60円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	7,064	19,945
(うち新株予約権(株))	(7,064)	(19,945)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要		

(注) 当社は平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

サンコーテクノ株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 布施木 孝 叔 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 稲垣 正 人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサンコーテクノ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、サンコーテクノ株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。